DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止
ぱない物語
2

ぱない物語 2
♡
フン
フン
フーン
ムシャ
ムシャ
ポロッ
ポロ

ー……。
おい…忍。
なんじゃー お前様よ。
僕のベッドの上でドーナツほおばるのはよせよ。
それと、その漫画。僕のお気に入りなの知ってるだろう。
ドーナツでベトベトの手で触るんじゃないっ
モグ
モグ
細かいこと言うのぉーえーじゃろが。
コラッァ何してんだ。
ワシぐらいの怪異なら分子レベルでの物質再構成が可能なことぐらい知っておろう。
読み終わったら漫画もベッドも新品にしてやるわい。
そーいうことを言ってんじゃない。気分の問題だっ
さっさと手ぇ洗ってこいっ

やれやれ
仕方ないのぉ。
!?
まったく
幼女に厳しい
わが主様じゃ。
……。
おっ…
おいっ忍っ
あー
分かっておる。
ちゃんと
石鹸使って
ツメの間も
丁寧にじゃろ
いっ…いや
その…
ちょっと…
こっち来い。
なんじゃ。
全くもう…
勝手なわが
主様じゃ

なんじゃお前様よ。
わしみたいな未成熟な身体でもOKなのか。
正真正銘の真性じゃな。
クニュ…
いーだろーがヤりたくなっちゃったんだから。
ほらバンザイしろぱんざーい。
ぱんざーい
よーしよしいい子だー
あー久しぶりだなぁ
……
よーしじゃあヤるか

「てかお前様、あのツンデレ娘はどうした。
彼女じゃろ。
お前様の性欲処理はしてくれんのか。」
「仕方ないだろ。ガハラさんまだHなことには
抵抗あるんだってさ。トラウマがあるからな。」
「はぁーっ？ナンっー…じゃ、それっ。
彼女の意味ないじゃろ。人間の世界で言う彼女っ
ていうのは好きな時にタダでヤらせてくれるもん
とちがうのか。」
「忍さん。どこで仕入れた知識か
存じませんが。ソレ。間違ってますよ。」
「なるほど言葉が過ぎたの言い直そう。
ヤラせてくれなきゃソレ彼女じゃないじゃん。
ただの知り合いじゃろ。」
「やめろ。僕の大事な彼女だぞ。肉体関係が
無くったって、僕らはちゃんと恋人同士だ。
デートだってするし手だってつなぐぞ
この前なんか聞いて驚け。
二人っきりで映画館に入ったんだぞ。
もちろん並んで席に座り映画の後半は僕の右肩に頭
をもたれかけてくれたんだ。」
「ひくわー。おまえら。
中学いや小学生か。」
「いーだろうがっ。結構これで幸せなんだぞ。
まあ、したいしたくないで言えばしたいに決まって
るけどさ。」
「じゃあお前様。アッチの処理はどうしておったの
じゃ。アレか。エロ本やネット動画でソロプレイか。」
「いやー。そのー…。
ぼくオナニーってしたことないんだよ。」
「は？ だってお前様よ。
健康な男子なら精通を迎えるあたりで
ムズムズから自然な流れで覚えるもんと違うのか。」
「いや、ぼくオナニーとか覚える前に火憐ちゃんや月火
ちゃんにヌイてもらってたから。」
「あー…。うーん。
一応ワシもお前様とはリンクでつながっておるが…
お前様のプライバシーを尊重し深くのぞき見したことは
なかったのじゃが…
あー。そーなんだー。」
「年寄り言葉はどうした。設定忘れんなよ。
んー、そうだなぁ。
僕が小学校上がる前から妹たちとは裸でじゃれあうのは
遊びの一つだったし、あたりまえの日常だったから。
ん？あぁ両親共働きで家にほとんど
いなかったからさ。そこは普通に。
精通なんか火憐ちゃんの口の中だぞ。ぼく。
僕が火憐ちゃんのマンコ舐めてあげる代わりに
僕のチンポしゃぶらせてさ。
気持ちよくなって出ちゃったんだ。
んで月火ちゃんも
『わたしもやるーっ』てなかんじで。」
「んじゃあれか。
お前様は小学生でもう童貞喪失か
妹たち相手に。」
「いや。
お互い性知識がついてきたところで
セックスしてみよかってことで
試したんだけどうまくいかなくってさ。
まあ入んなくてもお互いこすりつけ合うだけも
気持ちいいから。だから僕はまだ童貞だし火憐ちゃんも
月火ちゃんもまだ処女だぞ。
それより月火ちゃんはギューっと抱きしめてキスされる

のが好きだし火憐ちゃんは後ろから胸もまれながら
おまんこいじるられるのが大好きだもんな。」
「聞いとらんわ。てかだったらその妹御達にまた処理
頼めばよかろうが。」
「いやそれが最近二人とも彼氏ができたらしくってさ。
瑞鳥くんと蝋燭沢だっけか。それでまた今まで『兄妹
ならコレがふつーだよ』ってウソ教えて僕の性欲処理
をさせてたじゃん。それがみーんなバレちゃってさ。
ぜんっぜんやらせてくれねーの。以前程だけど。」
「当たり前じゃ。
てかよくその程度ですんどるのぉ絶縁されんだけでも
ありがたいことじゃ。家庭崩壊もせんとよくおぬしら。
一つ屋根の下暮らしとるもんじゃ。」
「いやいや、一応二人してボッコボコにシバかれたよ。
それから一週間ぐらいは口も聞いてくれなかったな。」
「だーかーらー。なんでその程度で済んでおるんじゃ。
刃傷沙汰に発展してもおかしくないじゃろ。」
「あ、いや包丁は持ち出してきたよ。月火ちゃんが。
まあ火憐ちゃんが止めてくれたけど。さすが空手家だ
よなぁ。
まあでもホントたまっちゃった時は、頼めばヌいてく
れるぞ。あの二人も基本、僕とエッチするの大好きだ
からなぁ。」
「なんていうかさー。妹御に関してお前様と喋ってる
とワシなんか頭おかしくなりそうじゃ。」
「あ。思い出した。ほら忍、早くベッド横になれよ。」
「ムードもなにもないのう。
お前様、欲望に躊躇無さすぎじゃ。」

「まあ。お前様と契るのはワシとしては吝かではな
いぞ。ワシは下僕でお前様が主じゃからな。
身体を差し出せと言われて断る理由をわしは持ち合
わせておらんしのう。」
「いや僕もそういう主従関係に物を言わせてという
のは。まあ燃えるっていうか萌えるけどな。
それはそれで。」
「お前様の性的嗜好に今更とやかくは言わんがの。
しかしじゃ。お前様の童貞を奪えるというのはワシ
としては結構、胸が高鳴る話じゃ。」
「高鳴りはするんだ、薄い胸だけど。」
「スレンダーと言え。お前様が妹御で性欲解消して
た時とそんなに変わらんじゃろ。」
「確かにな。」

まあ
なんだかんだで
我が主様の
『初めて』を
戴けたわけじゃ
からのう
あの
ツンデレ娘に
奪われる前で
よかったわい
んー？
どうした忍。
平気かー!?
ん…
大…丈夫じゃ
ぬちゅ
ぬちゅ
ずちゅ
んー…
よし忍
ちょっと
身体起こすぞ
後ろから
抱っこしな
がらしような
そっちの方が
重たくなくて
いいだろ
ん…

ほぉー。なんじゃ少しは気を遣う余裕が出てきたか
んはぁ
んはぁ
ぬちゅ
ぬちゅ
アッ出る
ずちゅ
あぁ…
結構、結構。さすがは我が主様じゃ♥
ドプュ
ドぴゅ
ドプュ

あぁっあぁー
んぅ…
ブルルッ
ドクッドクッ

忍、あの…もう一回いいか…？
なんじゃまーだやる気なのか？
全くこういう時の体力だけは底なしじゃの
いや別に構わんがも少し休憩をはさんで再開させてくれ我が主様よ
あーもう仕方ないのぉー…
おーい。おまえ少し相手してやれ
！

はぁーい…
ズッ…ズズズ
ビクッ
ひぁっ⁉
おい
自己紹介せい。
はい…。
あの…
初めまして。
忍・改と
申しますぅ
近所のミスドが
経営合理化の
あおりで深夜営業を
止めてしもうた
のでなぁ…
コホン
儂の就寝中
ドーナツの
買い出しのみに
特化した儂の
分身じゃ
なるほど…
最近、僕の財布に
覚えのない
ミスドのレシートが
入っていたが…
うむ。
少々拝借させて
もらっておった。
おいっ

ハァ
ハァ
バタ
ブルル
あ…
くる…し
重い…
苦…しい
あ…の
ジタバタ
ハァ
ぬぽぉ
ずぽぽぉ
あーごめん
ごめーん
ハァ
ハァ
つい夢中に
なっちゃったよ
ハァ

お前様よ
んー？なんだー忍。
こやつやっぱり性欲だけのタダのクズかもしれんのー…
そろそろやめんかぁ…今日の所は？
もうズタボロじゃぞ。下の奴は。
んーそうだなぁ
もう…ちょっとだけ…
あーあ…まったくエライ奴を主に持ってしもうたわい
ずちゅ
ぐちゅ
ぬちゅ
まあ…よいかの。これはこれで♥
カクン
……
カクン…

おしまい♡

この文章書いてる時点で〆切30分前。
おまけに細かい所まだ。
今回はもうほとんどあきらめていたので
よくここまできたなぁ。
おかげで初めて三倍界王拳使う羽目に陥った。
財布も体力もスッカラカンです。

まだもうちょっと粘ります。

皆さん良いお年を。

2014年冬

この原稿にとりかかってしばらくして
レーベ君をお迎えできました。
始めたのが去年の今頃だからほぼ一年か。
まだレベル85の少将です。

この原稿終えたら、また育てはじめようかな.

SCANNED BY CAPTCARISMA

発行　ろり絵号
編集・構成　冴樹高雄
発行日 2014年12月30日
印刷　プリントマウス様

kibatora@gmail.com
http://kibatora.web.fc2.com/